

ユニセフ親善大使としての活動に晩年を捧げた

オードリー・ヘップバーンへ

手紙を書こう

大女優として華やかな世界に身をおきながら、1988年、ユニセフ親善大使となったオードリー・ヘップバーンは、その晩年を恵まれない子どもたちを救うための活動に捧げた。

彼女の精力的な活動を支えたのは、

自らの幼少時代、オランダで、家族とともにナチス・ドイツへのレジスタンス活動に参加していたときの過酷な体験だった。

かつてスクリーンで見せた美しさは、子どもたちへの思いとともに、ますます輝いていった。

激動の20世紀をもっともチャーミングに生きた女性のひとり、オードリー・ヘップバーン。

そんなオードリーに、あなたはどんなメッセージを贈りますか。

第6回（2005年度）高校生エッセイ・コンテスト応募要領

1 手紙形式のエッセイ募集

オードリー・ヘップバーンのメッセージを受けとめながら、現代社会が直面しているさまざまな問題について、あなたが感じたことや考えたことを、オードリーへの手紙という形式で、自由に書いてみてください。

2 応募資格

高校生（学年や性別を問いません）

3 応募方法

日本語の場合は、1200字（A4判用紙、横書き、ワープロ・手書きいずれも可）程度。

英語の場合は、400 words（A4判用紙）程度。

※別紙に、氏名（フリガナ）・性別・高校名（所在県名）・学年・自宅住所（郵便番号含む）・電話番号を記入して原稿に添付し、郵送してください。

4 募集期間

2005年7月1日（金）～9月2日（金）（消印有効）

5 賞金等

最優秀賞1名（賞金5万円を贈呈。10月1日（土）津田塾大学において表彰します。）

優秀賞若干名（賞金1万円を贈呈）

最優秀作品は津田塾大学広報紙 *Tsuda Today* と津田塾大学ホームページに、優秀作品は津田塾大学ホームページに掲載・公表します。

応募作品は返却しません。応募作品の著作権は主催者に帰属します。

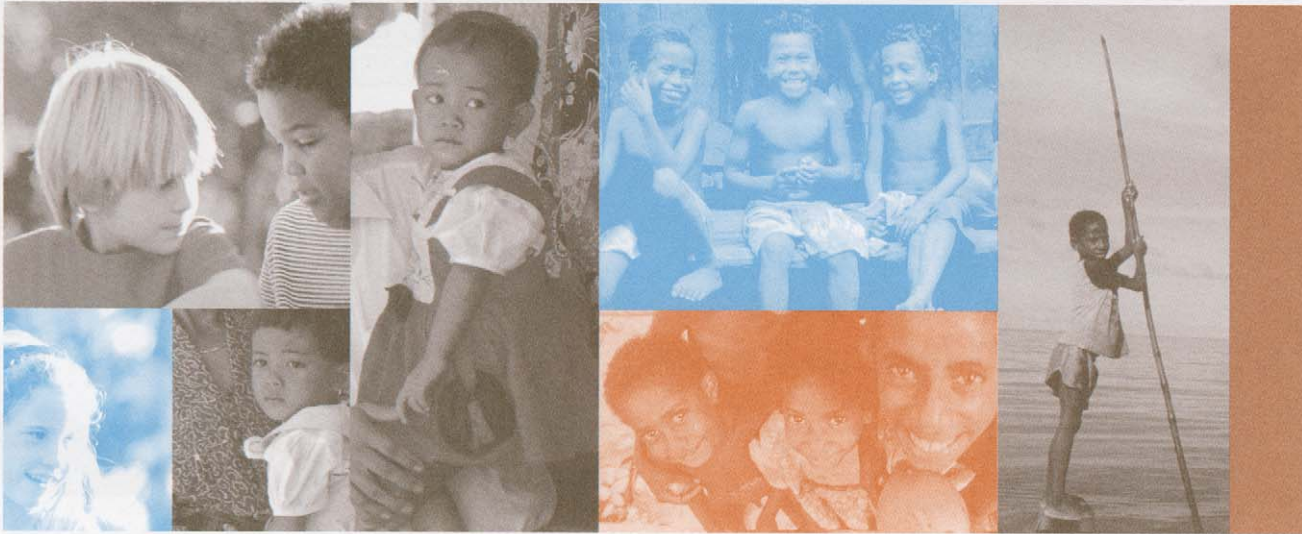
6 入選発表

9月22日（木）までに、入選者本人に通知します。

7 提出先・問い合わせ先

〒187-8577 東京都小平市津田町2-1-1 津田塾大学「高校生エッセイ・コンテスト係」 TEL.042-342-5113 E-mail: essaycon@tsuda.ac.jp

<http://www.tsuda.ac.jp> 津田塾大学ホームページで、第1回～5回の高校生エッセイ・コンテスト選考結果等を掲載しています。どうぞご覧ください。



晩年にユニセフのボランティアとして働き始めたオードリー（58歳）は、1988年4月15日にユニセフ親善大使（UNICEF Goodwill Ambassador）の契約を結び、1989年6月13日、ジュネーブから国際連合の職員たちに途上国開発基金（Development Fund）への協力を呼びかけた。その声明文（statement）の初めのところで、彼女は自分自身がUNICEFによって救われた少女時代について、こう語っている。（この声明の全文は<http://www.audreyl.com/unicef/index3.html>を参照。）

I have known UNICEF a long time. For, almost forty-five years ago, I was one of the tens of thousands of starving children in war-ravaged Europe to receive aid from UNICEF, immediately after our liberation. That liberation freed us from hunger, repression, and constant violence. We were reduced to near total poverty, as is the developing world today. For it is poverty that is at the root of all their suffering — the not-having; not having the means to help themselves. That is what UNICEF is all about — helping people to help themselves and giving them the aid to develop. The effect of the monstrous burden of debt in the developing world has made the poor even poorer, and has fallen most heavily on the neediest. Those whom it has damaged the most have been the women and children.

貧困のなかでは女性や子どもたちに大きな犠牲が強いられることを指摘しつつ、私たちの未来を託すべき子どもたちを助けることがいかに重要かを訴えるオードリーは、人類の脅威となる3つの根本問題（戦争・環境悪化・貧困）の解決に向けての希望も決して失うことはない。現代史の大きな社会変化に目を向け、1989年に国連総会で採択された「子どもの権利条約（The Convention on the Rights of the Child）」に言及した次の引用部分からは、彼女の深い歴史認識を読み取ることができる。（日本では1994年に批准された「子どもの権利条約[※]」は、18歳未満のすべての児童の権利を守るために国が適切な立法・行政措置を講ずることを義務づけている。）

※「子どもの権利条約」の全文は、<http://www.unicef.or.jp/kenri/joyaku.htm>を参照。

World population growth is beginning to be brought under control. Change is in prospect everywhere — and if at this time there is the vision to use this opportunity creatively to see a brave new world and to dare to reach for it, there is a real

なぜオードリー・ヘップバーン (Audrey Hepburn, 1929.5.4~1993.1.21; 63歳) は、

あれほどの情熱を傾けて、晩年の5年間をユニセフ (UNICEF; 国連児童基金) の活動に捧げたのでしょうか。

彼女のメッセージを受けとめながら、現代の世界が直面しているさまざまな問題について、

あなたが感じたことや考えたことを、オードリーへの手紙という形式で、自由に書いてみてください。

(UNICEFの活動の詳細については、<http://www.unicef.or.jp> [日本ユニセフ協会] または <http://www.unicef.org> [United Nations Children's Fund] をご覧ください。)

possibility over the next ten years to begin to come to grips with the triad of fundamental problems which threaten mankind: the presence and the threat of war, the deterioration of the environment, and the persistence of the worst aspects of absolute poverty.

Many of the great social changes of modern history — the abolition of slavery, the ending of colonial rule, the isolation of apartheid, the increasing consensus on the environment, or the growing recognition of the rights of women — have begun with rhetorical commitment which has eventually turned into action. In the 1990s it may at last be the turn of the child, and our dream for an international summit for children and ratification of the Convention on the Rights of the Child could become a reality.

さらにオードリーは、この後に続く声明文のなかで、簡単には達成することのできないユニセフの仕事の困難さを自覚する一方、単に悲惨な状況から子どもたちを守るという課題を超えて、「人間が他者に対して抱く非人間性」という深遠な問題にまで視点を広げていく。

UNICEF's mandate is to protect every child against famine, thirst, sickness, abuse, and death. But today we are dealing with an even more ominous threat, "man's inhumanity to man," with the dark side of humanity that is polluting our skies and our oceans, destroying our forests and extinguishing thousands of beautiful animals. Are our children next?

That is what we are up against.... Whether it be famine in Ethiopia, excruciating poverty in Guatemala and Honduras, civil strife in El Salvador, or ethnic massacre in the Sudan, I saw but one glaring truth. These are not natural disasters, but man-made tragedies, for which there is only one man-made solution — peace.

飢饉、貧困、内乱、民族の虐殺・・・これらはすべて人間が生み出した悲劇である。しかしオードリーは、人間にはこれらの悲劇を克服し平和を生み出す力があるはずだと訴える。オードリーの輝く笑顔を見ていると、私たちは人間の善意を信じられるような気がしてくる。

悲惨な戦争を体験した少女は、やがてスクリーンの妖精となった。
そして、恵まれない子どもたちを救う活動に晩年を捧げた。

Audrey Hepburn (1929-1993)

オードリー・ヘップバーンは、1929年5月4日、ベルギーのブリュッセルに生まれました。幼い頃からバレエを習い、両親の離婚というつらい出来事があったものの、演劇や音楽に喜びを見出しました。しかしその頃、ナチスのポーランド侵攻やイギリスのドイツへの宣戦布告などがあり、ヨーロッパは戦火の嵐に巻き込まれていきます。オードリーの一家は、より安全な場所を求めてオランダに移りましたが、その翌年、オランダもナチスの占領下に。そのため、彼女は10代の多感なときに、食糧も満足にない地下室で過ごすことになります。オードリーはユダヤ人ではありませんでしたが、彼女の親類や兄弟がナチスに連行されるなどの悲劇を経験しています。16歳のとき、ヒトラー自決の4日後、オランダはついに解放されますが、オードリーは極端にやせ細り、栄養不良に陥っていました。のちに女優となったとき、オードリーは、『アンネの日記』のアンネ役を打診されますが、「アンネは私自身。あまりにも自分の経験と似過ぎている」と断っています。ナチスの迫害に怯えながらの生活、強制収容所に連行されていく子どもたちの姿を、彼女は一生忘れられませんでした。

19歳のとき、ある映画に端役で出演、しかし女優としての芽は出ませんでした。ところが、その5年後に出演した『ローマの休日』で某国の王女役を気高く優雅に演じ、大評判に。主演デビュー作ながらアカデミー賞、ゴールデン・グローブ賞で主演女優賞を獲得し、以後、『麗しのサブリナ』、『ティファニーで朝食を』など多くの作品に出演しました。私生活では2度の結婚と離婚を経験、2人の男の子をもうけました。

1988年、58歳のとき、オードリーは国連児童基金(ユニセフ)親善大使の任務を「人生の最終章でもらったボーナスのよう」と喜んで引き受けました。そして63歳で病死するまでの5年間、エチオピア、トルコ、南アメリカ、中央アメリカ、スウェーデン、バングラデシュ、ベトナム、ソマリアと戦火の地を訪れ、各地の悲惨な状況を世界の人々に訴えました。癌に冒されながらも、飢饉に襲われたエチオピアの子供たちを励ますオードリーの写真は、現在でも多くの人々に感動を与えています。1989年11月20日、ニューヨークで開かれた国連総会では、「子どもの権利条約」の母体となった「子どもの権利宣言」を、子どもたちにやさしく語りかけるように読み上げました。

「私の子ども時代の経験から、戦争、暴力、飢餓の惨害をよく知っているので、こうした問題になんらかの取り組みをしなければいけないと考えるのです」という言葉からわかるように、オードリー・ヘップバーンは、戦争と飢餓のなかにある子どもたちを救う活動に彼女のすべてを捧げたのです。



参考書籍

- | | | |
|----------------------|--|--------------------|
| ○Sean Hepburn Ferrer | <i>Audrey Hepburn: An Elegant Spirit</i> | ATRIA Books, 2003. |
| ○シヨン・ヘップバーン・フェラー | 『AUDREY HEPBURN—母、オードリーのこと』 | 実川元子訳 竹書房 2004年 |
| ○ベルトラン・メイエ＝スタブレ | 『オードリー・ヘップバーン—妖精の秘密』 | 藤野邦夫訳 風媒社 2003年 |